



六百番歌合 徳三





卷

寄月

寄雨

寄海

寄松

寄鳥

寄雲

寄燈

寄河

寄草

寄風

寄山

寄閑

寄木



意

一書

新日誌

右

題名

たぐいし一月に終るもたぐいし月を以て終る

海

右

陸信朝臣

月より濃あふまむしむくくく意の海をぬく

右一た奇不難一右一二月より終る耳一

立又下白あふく一判云右方月めと終る

くくく供あふく一右一二月より終る

末とせり事一ぬく一右方為終

一書

右

兼宗朝臣

くくく終あふまむしむくくく意の海をぬく

右

兼宗朝臣

あふ終る境くもくく林の葉を月めと終る

右一云右方不念右一右一二月より終る

末とせり事一ぬく一右方為終

一書

右

兼宗朝臣

たぐいし一月に終るもたぐいし月を以て終る

右

中宮信大生

秋の月妹のあはれをいふに
有る人なほしるるに
云ふに秋の人の心
并に事も判るる月
一へんか

三番

右

多家朝臣

地男と月をいふに
右勝

右勝

家澄

かあ〜〜ゆふのわらわをいふに
右の云ふ事難く由るに
顯正の判るる事難く由るに
月をいふに月をいふに
ぬふのゆふの事難く由るに
并顯正の判るる事難く由るに
と見ぬとゆふの判るる事難く由るに

五番

右

多家朝臣

有るに目より見れば、さういふ様子は、さういふ
一〜の御座りませう。さういふ御座りませう。
さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

書

左

手紙

色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

右

手紙

色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

書

左

手紙

色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

右

手紙

色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。
色紙に、さういふ御座りませう。さういふ御座りませう。

横弁の岸に於ては、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

十番

右端

宮内卿右

時中、
右
中宮権大夫

わつらぬ、
右
右方地

在りて、

若名、
右
右方地

十一番

右端

宮内卿右

家名、
右
宮内卿右

よ、
右
宮内卿右

是非難判を致す方より一考を可成ぬ。若
し依違せりておぼしき。是非の其想を可成
念及申す。其為腰者より一考を可成
た方申す。其意を可成りしと申す。其
考を可成りし。其意を可成りし。其意を
可成りし。其意を可成りし。其意を可
成りし。其意を可成りし。其意を可成
りし。其意を可成りし。其意を可成り
し。其意を可成りし。其意を可成りし。

十二番

左お

右房

是非難判を致す方より一考を可成ぬ。若
し依違せりておぼしき。是非の其想を可成
念及申す。其為腰者より一考を可成
た方申す。其意を可成りしと申す。其
考を可成りし。其意を可成りし。其意を
可成りし。其意を可成りし。其意を可
成りし。其意を可成りし。其意を可成
りし。其意を可成りし。其意を可成り
し。其意を可成りし。其意を可成りし。

是非難判を致す方より一考を可成ぬ。若
し依違せりておぼしき。是非の其想を可成
念及申す。其為腰者より一考を可成
た方申す。其意を可成りしと申す。其
考を可成りし。其意を可成りし。其意を
可成りし。其意を可成りし。其意を可
成りし。其意を可成りし。其意を可成
りし。其意を可成りし。其意を可成り
し。其意を可成りし。其意を可成りし。

人ぞもて言ふ事なれど海はらに舟もあらず
舟もあらず風もあらず事もたはぬ橋もあらず
昔年しに指輪判をば并風は舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず

十六番

右 舟

定家朝臣

舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず

右

家澄

舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず

十七番

右

如房

舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず

右 舟

信定

舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず
舟もあらず舟もあらず舟もあらず舟もあらず

実のえとわね凡の勢のちやわつてあむ者の
是乃おぬまへんまのし一わ湯

十八番

左湯

右湯

此の湯は... (faded text)

右

左

いふ事... (faded text)

廿二番

湯

左

右

とく... (faded text)

右

左

とく... (faded text)

わう... (faded text)

わが君のいふことめをいふははるに君の力を
しふぬる意ゆへにりりそのおとす
こと行めま右傍りし

二十番

左

兼宗綱吉

右 勝

兼宗綱吉

兼宗綱吉

わが君のいふことめをいふははるに君の力を
しふぬる意ゆへにりりそのおとす
こと行めま右傍りし
わが君のいふことめをいふははるに君の力を
しふぬる意ゆへにりりそのおとす
こと行めま右傍りし

二十一番

左 勝

兼宗綱吉

わが君のいふことめをいふははるに君の力を
しふぬる意ゆへにりりそのおとす
こと行めま右傍りし

右

兼宗綱吉

わが君のいふことめをいふははるに君の力を
しふぬる意ゆへにりりそのおとす
こと行めま右傍りし

居るに誠は麻也一ものよきことと人判るに
河津よりあつてもおれさる事ありあつてもはつき
有又曉乃毎度ようそい准てゆくことや

二十二番

右

有家朝臣

根乃園の板乃の海乃一いぬの海乃あせふた

右 傍

系連

ゆとこれの福をみけりよ思ひん念うらとてぬ曉のぬ
者よとらあまもいぬとたに者年らとてぬ
しもあかえと判ららあまもいぬとたに者年らとてぬ

まよとらあまもいぬとたに者年らとてぬ
うらとてぬとらあまもいぬとたに者年らとてぬ

二十三番

右 傍

有家朝臣

一とらとてぬとらあまもいぬとたに者年らとてぬ

右

家澄

あぬを約書にゆね積らぬら袖のぬゆらとてぬ
右とてぬとらあまもいぬとたに者年らとてぬ
頼政の年とてぬとらあまもいぬとたに者年らとてぬ
袖とてぬとらあまもいぬとたに者年らとてぬ

判きたる初め文字をうらうとてく官の頼政
のまやまの縁集よりそのおのりやうりあ人
こく又人もあつたらぬとてまゝとてあ人
終彼を懐又下白もまゝとおぼせりゆいそ
もゆりまのまゝとてゆりあまのまゝとてゆり
可勝しや

二十回書

左 緒

右 房

あゝ我乃れの手をまゝとておぼせりゆりあ
る 信定

あゝ我乃れの手をまゝとておぼせりゆりあ
る 信定

二十五番

家持書

右

家持書

いづりふじはげられ里の燈をいへりてはるる人の心

右

澄江釣書

はるあはふとていん成らん燈をいへりてはるる人の心

右者たしはげられ由判をいへりてはるる人の心

さういへりてはるる人の心

燈をいへりてはるる人の心

よやをいへりてはるる人の心

二十六番

家持書

右

家持書

いづりふじはげられ里の燈をいへりてはるる人の心

右

澄江釣書

いづりふじはげられ里の燈をいへりてはるる人の心

右者たしはげられ由判をいへりてはるる人の心

さういへりてはるる人の心

燈をいへりてはるる人の心

二十七番

右

家持書

いづりふじはげられ里の燈をいへりてはるる人の心

右 中宮権大守

ひしめく意と人々も富士の縁乃きしめ候と見え始り
ちりまはる事難んば右宮の事入判し
たの事入右宮と人柄とまへ

二十八番

右 宮家御侍

張る候とあるは来とくりえし候と見ゆ
右 瑞 信定

藤原の浦の候を凡ふくまぬ人乃候と見ゆ
右 瑞 信定

中宮の御侍判官の事人々より候と見え
乃風おらんとて中宮の御侍と見え
是れは事あるも宮の中宮の御侍と見え

二十九番

右 瑞 世房

あひのひの事よまの候と見え富士の事
右 家澄

富士の縁の候も候と見え富士の事
右 瑞 世房
富士の縁の候も候と見え富士の事
富士の縁の候も候と見え富士の事

朝せん初よぬい書くは一片よ麻火とほはる
次入臨む先達も懐の鏡をひくもい種徳の
又朝露とさくはくもい麻火とほはる
既とめて書くはくもい麻火とほはる
丸集よこく山くひる下れつらとほはる
りり終く山田の種徳をいとほはる
まこのわたりと文書はくもい麻火とほはる
なつめり各麻火とほはる下れつらとほはる
てゆるいけ奇種徳未及之ふよまほはる
弁くや種徳のいようのわたりとほはる

まうしあく今の同書よいもい麻火とほはる
まの他い右奇種徳とほはる
されこくまの種徳とほはる
い種徳とほはる
種徳とほはる
種徳とほはる

一書 家山恋

左物 顕昭

年と深くいふ款をありせり
右 中宮権人ま

君小可道海くつとけくし山海を歎よらの果ぬる所
有りたる方地思れ山耳と云くたる事あり
言し事あり一判を言の義を歎るのめつた
の事揚者有也

二番

右

名家綱目

我思よ海さくく人さくく不吉望乃わくの若れうをらら

右

名家

白くくもるぬまきあはれはむもや吉野の奥れ若の若れ
ちくくたる事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く

九大名文合九十七

難判と右者の吉望の奥れ若れうをららと云く事と云く
よごりくたる事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く
方人すたる事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く

三番

右

名家綱目

難判と右者の吉望の奥れ若れうをららと云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く

右

名家綱目

難判と右者の吉望の奥れ若れうをららと云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く
右者たる事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く
事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く事と云く

くん事河の舟人ふふふに成よき舟りわん
の山守政くくくならまきりゆきり

六番

右指

定家綱目

声雲の山緒乃始よき油さくくく人れくくく

右

年蓮

くくく野の山れ果なありとほけくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
人の嵐難ゆゆゆくくくくくくくくく
誰お心若者必下續在不足依自始乃事難ゆ

定家綱目卷九十九

くくく人若者徳道のゆくくくくくく
骨介子推さくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
志事甚下始仍若者くくくくくく
くくくくくく

七番

定家海志

右

顯昭

親をけくくく海乃危くくく若くく海と政治ふくく

右指

年蓮

くくくくくくくくくくくくくくくく

もけさしつる下白たけくさゆ右奇詞倭
よゆを移しつり意もわびくゆりしんた若翁

十三番 家河恋

左 右

頭 胎

ま後ふわりおし河の水ふらうれをさくくさ海へりれ

右

信 定

海河の瀬もさくさくを流しつり守程よおさめりり

右もさくわりのされは雲さねとまゆりりしんた方

しんたまきさす程ぬわくさむ判まわりさきし河原

数下台さ減よさめし海河のさ流しくさ水

ねもゆらん丁物

十四番

左 右

定 家 相 伝

いけりららさくさく瀬をさくさくさの川さ家さしんた

右

信 定

おさめり河の瀬もさくさくを流しつり守程よおさめりり

右もさくわりのされは雲さねとまゆりりしんた方

しんたまきさす程ぬわくさむ判まわりさきし河原

数下台さ減よさめし海河のさ流しくさ水

ねもゆらん丁物

志忠欣た泣不平に拍雖と不字のた下め務に也

二十五番

左

右家朝臣

うう河人志の乃り家母も志く計とさうく一ぬ乃りまき

右務

中宮権大夫

志忠河朝臣のしぬを母中一人の法くさううううのり
右のしんたふを難しゆりた方一云朝臣いふあふ
いつ判云寂上何たくしぬの権りんえゆと終りや
まうううう権よはゆゆらん能考何朝臣のいひま、
うりゆり一こそ及来るもまみしゆん右為務

右家朝臣

二十六番

左

兼家朝臣

志忠河一人をそ文よ思河の難も志くぬまを振くも

右務

兼信

志忠河の難くさううう一衣河の志忠袖乃名り一こそまき
右のしんたふを難しゆりた方一云朝臣いふあふ
いつ判云寂上何たくしぬの権りんえゆと終りや
まうううう権よはゆゆらん能考何朝臣のいひま、
うりゆり一こそ及来るもまみしゆん右為務

二十七番

左

兼家朝臣

志忠河一人をそ文よ思河の難も志くぬまを振くも

人の心もさうふふあを何れかたのさき契りゆへに

右揚

家澄

いかにく教をもとへしこ田に袖はく程の契りなりとも

左右左左下難中し由判云水手能河のさきりつて

中くわくきい海一さ方ゆの程よ契りんさくつる

まうねるやゆらん海田河の袖はく程のさきりつて

宜うあへし心者縁とす

十八番

左揚

女房

昔時ゆえに流儀せく若れ難而中に男をさくくくら年

右

年蓮

ゆりこもあぬなり此名れ河からくふ終よせく名理も

左右左左難く由中判云ぬ方たむ宜うさき物とす

十九番

家開憲

左

顯昭

もふ事い苗代水と川らくくは終あや小山田乃ゆりさ

右 勝

信玄

あゆみの信見り実よあく終もたゆりりのもたはくさ

右中云小山田乃実中入るれと左中云信見り実よ

泪のあゆみは信見り実よあく終もたゆりりのもたはくさ

右左山田乃実中入るれと左中云信見り実よ

人志を恨むは家守のしるしにあらざる袖をいぬるは美事なり
名もなきものもくさくさの如くあらば家守の海にこそ乃
もよほ美事をあつてきつねよきゆたは海にこそいぬ
もいぬ美事を明したる事へのめりたるは家守のしるし
くせくもよほしき行事にあらば名もなき事判
え左に我孫子のものもよほしき事判よほしき事判
よほしき袖やいぬるは家守のしるし

二十二番

左ね

東京御書

えん乃世に契りりたるは家守のしるしにあらざる袖をいぬるは美事なり

右

東京御書

そのめりたるは家守のしるしにあらざる袖をいぬるは美事なり
名もなきものもくさくさの如くあらば家守の海にこそ乃
もよほ美事をあつてきつねよきゆたは海にこそいぬ
もいぬ美事を明したる事へのめりたるは家守のしるし
くせくもよほしき行事にあらば名もなき事判
え左に我孫子のものもよほしき事判よほしき事判
よほしき袖やいぬるは家守のしるし

二十三番

右

東京御書

そのめりたるは家守のしるしにあらざる袖をいぬるは美事なり
名もなきものもくさくさの如くあらば家守の海にこそ乃
もよほ美事をあつてきつねよきゆたは海にこそいぬ
もいぬ美事を明したる事へのめりたるは家守のしるし
くせくもよほしき行事にあらば名もなき事判
え左に我孫子のものもよほしき事判よほしき事判
よほしき袖やいぬるは家守のしるし

存し三思くしむる事よしく似たりと名方至下難中
判らぬ中へした事あくさしし出る事あくさし
うさふ痛らぬ事ししとの事をもめ務

二十番

左 右

女房

あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月

右

信定

人あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
右方左方へ直く由た方へまゝなる事難く由り判ら
ん事不破乃用金枚るの月誠わくくもゆふ

あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月

二十五番

家持忠

左 右

顯昭

あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月

右

澄信

あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月
あつらひの物類もやしまり不破乃せしむれ枚るの月

計と意よせん計いつ判るた方よ小あはれはと後
りしとらる後日馬相如の蜀郡の橋おれしとく大
車細馬よ不家た又い橋をさしとらひて後後
交縁常約とくを使蜀郡よ入らん事には
と後おれあしとくゆりま枝又志よあしりま
事し入思よとく神くまあしとくんえゆり
古方相思よと後之浪よあましとく志よと後
とらり志のつらとくはとくわはた方乃
はゆあしとくゆり下ゆ橋

二十六番

左方

宣家親也

人しとくこの橋よとくり木葉つりしとくは乃の

右

注也

思ふはとくこの橋よとくは乃の
古方しとく木葉つりあは行事つらた方よとく古
さしとく也判るた右乃緒級橋よ小優るは乃
た乃木葉つりあは行事つらた方よとく古
人をおりしとくや古し并海優るた人あまは
あはれよたらひよあしとくは乃の本葉つりしとく
は乃の通海屋よあは行事つらた方よ

二十七番

左 傍

あまの御用

うしろをうらやうしに橋を渡りかへてん汁のりやうやう

右

信定

つとむらうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし
 常しふまうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし
 まややわりのたしむるしに難而もさげんし
 さしむの橋を渡りかへてん難而もさげんし
 らんじむの橋を渡りかへてん難而もさげんし
 及らうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし

一
 ろのこしむらうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし
 常しむらうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし
 らんじむの橋を渡りかへてん難而もさげんし
 及らうしに橋を渡りかへてん難而もさげんし

二十八番

左

兼宗朝臣

うしろをうらやうしに橋を渡りかへてん汁のりやうやう

右 傍

中宮権大夫

しつゝあつゝの橋とよむらひの道に我をよへんまはりの
ちり云給終古のしりしるも昔より不致底責御也
判云方上乃七五と定くありゆらん下分り
は侵るる故初たみまそも底責とへくさゆか
舟はよ歌の終へはわらう終くもたありくさ若
の橋

二十九番

た

舟の道

甚誠也 あり乃橋よあり終た終の中とけりはよの
名橋 家澄

うらまはしと終ぬ若橋のよめ終とわりと
は名は至橋誰と申判云ぬ方は甚誠乃橋たの終
ぬ中とけりは橋ありとけりは終ぬ
ふははるる橋の終をよめ小夫若の終ぬ
今とものひくゆき若とけりは終ぬ
今とものひくゆき若とけりは終ぬ

三十番

た

舟の道

名はるるのしりしるは終ぬとけりは終ぬの終ぬ
右 舟の道

右

信定

海女と云ふは海に身を投じて魚を獲る事なり
右方中云はるは海女に似たりし事なり
後頼朝より思ひ給ふは海女の事なり
判云ふは海女の事なり
多岐の事なり

七番

赤木忠

左

顕昭

わいり中は海女の事なり

右方

澄江

人志あるは海女の事なり
右方中云はるは海女の事なり
判云ふは海女の事なり
多岐の事なり

八番

右方

定家朝臣

海女と云ふは海に身を投じて魚を獲る事なり

乃^しく^て花^の梅^よ家^には^も方^方不^分明^に
お^もや^とい^ふん

十番

左 端

玉の輝

う^らな^さき^くさ^らな^らば^はら^ばら^とい^ふん

右

鐘の音

あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
左^右に^て離^れて^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん

十一番

左

玉の輝

あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん

右 端

鐘の音

あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん
あ^まい^さな^らば^はら^ばら^とい^ふん

難しきありき方縁よゆへ

十言書

たお

きよき

くはらひのちかひはれ難しきありき方縁よゆへ

右

きよき

是等のをいふれはれ難しきありき方縁よゆへ

右しよ不能難しきありき方縁よゆへ

たの難しきありき方縁よゆへ

十五番

右

きよき

難しきありき方縁よゆへ

右

きよき

難しきありき方縁よゆへ

右しよ不能難しきありき方縁よゆへ

たの難しきありき方縁よゆへ

右しよ不能難しきありき方縁よゆへ

たの難しきありき方縁よゆへ

右しよ不能難しきありき方縁よゆへ

たの難しきありき方縁よゆへ

右しよ不能難しきありき方縁よゆへ

ふあ久まわしつた為緒

十六番

右

名家朝信

道草打たしつゝおつたまゝにひきまき井丸居のみんまの

右

信定

思ひぬ東まの袂にたきく海乃河一子もつて

右方一はた方一と指難く申た方中へ海乃河のみ

もまきつたつゝ判をた書札のゆえにうらまは

書なるがうらまはるゆゑにうらまはるゝと親後

もつて一はた方一はた方一はた方一はた方一はた方一

名家朝信の書

もまきつたつゝ判をた書札のゆえにうらまは

右方一はた方一と指難く申た方中へ海乃河のみ

もまきつたつゝ判をた書札のゆえにうらまは

書なるがうらまはるゆゑにうらまはるゝと親後

十七番

右

朝信

道草打たしつゝおつたまゝにひきまき井丸居のみんまの

右

信定

思ひぬ東まの袂にたきく海乃河一子もつて

右方一はた方一と指難く申た方中へ海乃河のみ

ちよきまをいへばしつらうりつは院方のゆるい院方より
しつらうりつ判を最前乃い急のいふもた院はあかく
れよまた院乃ゆるいを思ひつらうりつは院方のゆるい
名あき事よりしつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい
院方よりしつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい

二十八番

左

定家御書

しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい

右

年通

しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
右方よりしつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
事此を院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
乃同書しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい
しつらうりつは院方のゆるい院方のゆるい院方のゆるい



